

令和7年8月22日開催
調 査

経済福祉常任委員会資料

○調査事件4 ナマコ種苗放流事業について

産 業 課

調査事件 4 ナマコ種苗放流事業について

1 これまでの種苗放流の経緯

町内におけるナマコ種苗放流事業は、平成 22 年度から福島吉岡漁業協同組合（以下「漁協」という。）の単独事業として開始され、浮遊幼生期の人工種苗を各漁港内に放流しております。

平成 25 年度からの 3 年間は、漁協事業に対し町が財政支援する形で事業が展開され、種苗購入及び地元での人工採苗により稚ナマコを各漁港へ放流しております。

また、平成 28 年度からは人工採苗による稚ナマコ、令和 2 年度以降は浮遊幼生期を各漁港へ放流しております。

2 町内におけるナマコ漁獲量

町内におけるナマコの漁獲量は、令和 4 年度までは 3 千キログラム、1 千万円前後で推移しておりましたが、放流効果及び単価の上昇等もあり、ここ 2 年ほどは漁獲量及び漁獲高ともに上昇傾向にあります。

（単位：kg、千円、円）

区 分		R2	R3	R4	R5	R6
吉岡 地区	数 量	1,940.6	850.1	1,419.9	1,309.5	1,875.1
	金 額	6,243	2,523	4,279	6,452	7,306
	平均単価	3,217	2,968	3,014	4,927	3,896
福島 地区	数 量	1,320.3	1,855.8	1,750.7	2,710.5	2,909.0
	金 額	5,247	7,217	6,445	15,311	12,259
	平均単価	3,974	3,889	3,681	5,649	4,214
合計	数 量	3,260.9	2,705.9	3,170.6	4,020.0	4,784.1
	金 額	11,490	9,740	10,724	21,763	19,565
	平均単価	3,524	3,600	3,382	5,414	4,090

※漁港外での組合員の水揚げ及び漁協の自営事業収入を含む。

3 令和 7 年度から 3 か年のナマコ放流種苗事業の内容

(1) 事業概要

町内の水産業は、日本全体が地球温暖化による海水温の上昇などで水産業界が厳しい状況の中にあって、前浜の養殖コンブやキタムラサキウニの生産

が高値で推移するなど、近年は安定した漁獲及び漁業所得となっております。

このような状況の中にあつて、今後、さらなる海水温上昇による漁獲変動が懸念されることから、漁協では養殖コンブやウニに次ぐ新たな前浜資源の確立を図る観点から、新たな取り組みとして高単価が期待されるナマコの漁獲向上によって、漁業経営の安定と所得向上を図りたいとの強い要望があり、関係団体と事業推進に係る協議をしております。

このため、漁港の静穏域を有効活用し、前浜資源の確保・増大と漁業者の所得向上を目標としたナマコの育成調査を実施することとしております。

育成調査は、福島漁港及び白符漁港において放流したナマコの育成状況を調査するもので、結果をもとに今後、町内4漁港で本格的に種苗育成を開始し、将来的な漁獲高を大幅に増加するよう計画しており、町、漁協、漁業者及び水産技術普及指導所が連携して試験調査を実施してまいります。

本事業については、北海道の地域づくり総合交付金を活用し、3か年の調査事業として実施するものであります。

(2) 事業内容

ナマコ種苗は北海道栽培漁業振興公社から購入し、稚ナマコ育成礁「ナマコのゆりかご」（以下「育成礁」という。）を活用し、小型種苗（体長20mm程度）が漁獲サイズ（100mm程度）に到達するまでの育成試験と、漁港海底へ放流した大型種苗（体長30mm程度）の育成状況の調査を実施します。

育成礁は、（国研）土木研究所寒地土木研究所の研究により開発されたものを使用し、外敵から保護しつつ、小型種苗を成長させることができる育成礁となっており、1年間礁内で稚ナマコを飼育し、30mmとなる翌年度に外部環境へ放流する計画となっております。

また、育成礁は、研究・開発にあたり、白符漁港で実施された試験研究の結果が反映されているため、福島町の海域には適したものとなっており、福島漁港10基、白符漁港に10基を設置することとしております。

なお、北海道開発局では、令和8年度に福島・白符の両漁港へ試験的に割石を投入し、令和9年度から本格事業として割石投入を実施することで事業協議を進めております。

(福島漁港設置予定箇所)



(白符漁港設置予定箇所)



('ナマコのゆりかご')



(3) 事業費

ナマコ種苗放流事業については、北海道栽培漁協振興公社から3年間の計画で種苗購入することとしており、購入費は各年2,000千円、ナマコ礁の購入は令和7年度単年事業とし、毎年の調査はダイバーにより実施いたします。なお、3年間の予定事業費は次のとおりです。

(単位：千円)

事業内容	令和7年度		令和8年度		令和9年度		総事業費
	事業費	財源内訳	事業費	財源内訳	事業費	財源内訳	
ナマコ種苗 購入 ・20mm: 5,000 個 ・30mm: 27,500 個	1,980	道交付金 990 町一般財源 990	1,980	道交付金 990 町一般財源 990	1,980	道交付金 990 町一般財源 990	5,940
ナマコ礁 購入費 ・20 基/ 1 基: 159,500 円	3,190	道交付金 320 町一般財源 2,870	0	0	0	0	3,190
調査・放流 経費 ・ダイバー委託 消耗品等	520	道交付金 190 町一般財源 330	520	道交付金 190 町一般財源 330	520	道交付金 190 町一般財源 330	1,560
合 計	5,690		2,500		2,500		10,690

※日常的な管理に係る経費は漁協の負担となります。

(4) 事業ロードマップ及び漁獲金額計画

関係機関	R7	R8	R9	R10	R11
国（開発局）	事業計画策定 （割石投入）	福島・白符漁港 割石試験投入	福島・白符漁港 割石本格投入	浦和・吉岡漁港割石投入要望	
道（振興局）	地域づくり総合 交付金申請	地域づくり総合 交付金申請	地域づくり総合 交付金申請	補助終了	
町	試験事業	試験事業	試験事業	補助終了	
漁協	試験事業	試験事業	試験事業	種苗放流・漁獲	種苗放流・漁獲
漁獲額（R7 種苗）			7,800 千円	5,850 千円	3,900 千円
漁獲額（R8 種苗）			— 円	7,800 千円	5,850 千円
漁獲額（R9 種苗）			— 円	— 円	7,800 千円
漁獲額計			7,800 千円	13,650 千円	17,550 千円

※漁獲額は事業分のみであり、天然からの漁獲額は含まない。

4 今後の方向性について

漁業者により採捕される福島町産ナマコの単価は、平成25年頃まで2,000円台で推移していましたが、日本産ナマコの中国での人気高騰により、平成27年頃から3,000円台、令和5年に5,000円台と高値で推移しております。

このような状況から、新たな管理漁業としてナマコ資源の維持・増産は、漁業者の所得向上に大きく寄与するものと期待されております。

ナマコ種苗は、漁獲サイズに到達するまで概ね2年から3年の育成期間を要するため、漁港内の静穏域に割石を投入し、生息適地として整備することで、放流種苗の生残率の向上や漁獲の確保が図られます。

この取り組みにより、ナマコ資源の増大による漁獲高及び漁業者の所得の向上並びに漁協の財政基盤の安定化を目指してまいります。

なお、本事業における関連予算については、定例会9月会議において補正計上する予定となっております。